

午後 1 時30分 開始

【秘書広報課長補佐】 ただいまから、平成25年10月市長定例記者会見を始めさせていただきます。

本日の会見の進行につきましては、お手元に配付の次第のとおり、最初に市長の挨拶、その後、お手元の次第のほうでは4項目でございますが、もう1枚、追加で資料を配付させていただきましたので、5項目につきまして事業発表をいたします。ご質問につきましては、事業発表についてからお願いをしたいと思います。事業発表に係る質疑応答終了後に、次第の3番目、フリーの質疑応答へと進行したいと思います。なお、終了は14時30分を予定してございます。ご協力のほどよろしくお願いいたします。

それでは、市長、よろしくお願いいたします。

【市長】 9月16日には台風18号ということで、ここに本部を設置して、記者の皆さん方にもご心配をおかけしたところでございますけれども、敦賀のほうでは比較的被害は少なかったわけでありまして、嶺南地域一帯で大きな被害が出てしまいました。自然災害の恐ろしさ、またその備えの大切さを再認識したところでございまして、今後とも敦賀市民の安心、安全のためにしっかりと対策をとりながら備えていきたい、このように思っているところでございます。

それでは、発表項目に従いましてお話をさせていただきますので、よろしく申し上げます。

まず第1点、今お配りした資料ですが、町家テナントミックスの完成とイベントの開催でございます。

博物館通りの賑わい創出のプロジェクトの一環として港都つるが株式会社が手がけております事業でございますけれども、その改修工事の完成記念、また店舗も3店舗開業をいたします。博物館通りににぎわいを呼び込むイベントということで下記に書いてございませうとお開催をするわけでございます。また、記者の皆さん方にもお時間ございましたら取材に来ていただければありがたい、このように思っておりますので、よろしくお願いいたします。細かい内容につきましてはここに書いてございますので、よろしく申し上げます。

続きまして、Payとeasyを引っつけましてPay-easy（ペイジー）というふうに呼んでおりますけれども、口座振替の受付サービスの開始についてであります。

これは納付の手間、また納め忘れがない口座振替の申込手続を便利で簡単にするために行うものでありまして、納付環境を整えて市民の利便性の向上を図るために口座振替手続を金融機関のキャッシュカードによって行うサービスでございます。昨日から開始をさまして早くも数件手続をしていただいたということでございます。そういうふうなことで納めやすい環境づくりにこれからも取り組んでいきたいというふうに思っております。

次に、観光物産フェアの開催でございます。

これは毎年開催をいたしておりますけれども、敦賀にゆかりのありますそれぞれの町からも来ていただきながら、それぞれの特産品、また販売、展示等を行うことでお互いの友好のきずななども深めながら、私ども敦賀市の観光、そして産業の活性化を図るために毎年開催をいたしております。10月26、27の土日できらめきみなと館のイベントホール、またその周辺、金ヶ崎緑地なども活用をして行いたいというふうに思っているところでございます。

次に、教育フェア2013敦賀の開催でございます。

これは、敦賀っ子ということで敦賀スタンダードの構築を目指しておる中で、今までは教育委員会が主にやっておりましたが、ことしは敦賀教育フェア実行委員会が中心となって開催をいただくものでございます。昨年も開催をしまして、かなり好評であったわけでございますし、市民の皆さん方とともに敦賀の教育のあり方、敦賀スタンダードについて学んでいただくイベントでございます。細かい内容につきましてはここに記載のとおりでございます。

次に、敦賀マラソンの開催でございます。

これは10月20日の日曜日でありますけれども、もう第34回を数えるわけでございます。今回は地元のランナーであります大南姉妹を迎えて大会を開催したい、このように思っております。いつかは私も走りたいというふうに思っておりますけれども、この体型ではなかなか無理なので来年あたりは走れるように頑張りたいなというふうに思っております。

発表項目は以上です。

【秘書広報課長補佐】 それでは、ただいま発表させていただきました項目についてご質問をお受けしたいと思っております。

最初に幹事社からよろしく願いいたします。

【記者】 敦賀マラソンに関して伺いたいですけれども、市長は今ちょっと走らないということだったんですけれども、号砲を鳴らすのに登場したいとか何かそういうことはあるんでしょうか。

【市長】 毎年、号砲は鳴らしております。挨拶と号砲は必ずやっておりますので、いずれは走りたいなという思いをいつも持つておるんですけれどもなかなか実現していませんので、来年あたりは頑張りたいと思っております。

【記者】 博物館通りの賑わい創出の件ですけれども、周辺で聞きますと駐車場の問題であるとか、今は赤レンガ倉庫の整備も進んでいると思っておりますが、いわゆるその周遊性という問題からするとまだまだ足りない部分があるんじゃないかなというふうに思います。これが一つの通過点だというふうに捉えればいいのか、今後を含めてどのようにお考えなのか改めて教えてください。

【塚本副市長】 おっしゃるとおりで、まずこの博物館通り、今博物館の改修等も含めて敦賀酒造の件もございまして。そういった中でまずはこの3件の町家再生をきっちりやって集客、本当の鎗矢、嚆矢でございます。ここから始めたいというふうに思っております。

【秘書広報課長補佐】 それでは、各社お伺いしたいというふうに思います。発表項目につきましてご質問ございましたら挙手をお願いいたします。

【記者】 市長にお聞きしたいんですけれども、この博物館通りですけれども、今市内では金ヶ崎緑地の周辺や駅前の活性化もそうですけれども、位置づけというんですかね、どこを中心にもちづくり、誘客を進めていこうとしているんでしょう。核になるところが分散しているかと思うんですけれども、この博物館通りの位置づけをもう一度、お願いします。

【市長】 もともと中心市街地の活性化でありますから、駅から始まって商店街、そして相生の今おっしゃっていただいた博物館通り、そしてそれとつながる金ヶ崎一帯ということで周遊性を持って取り組んでいきますけれども、どこがということになりますと、やはり今の博物館通りというのはメインにかなり近い。それと港では、議会のほうでいろいろ議論、皆さん方もお聞きになったと思っておりますけれども、これから赤レンガ倉庫等々の改修にも取り組みますので、まちなか全体がやはり一つのメインであります。それとあわせて当然多くのお客さんを集客するというので、従来からあります松原もあり、また中池見もありということをやうまくバランスよく取り組んでまちづくりを進めていきたいというふうに思いますので、ここをどこどこ1点に絞ってということはないと思っております。

【記者】 博物館通りの話なんですけれども、お肉屋さんの店主が先日亡くなられて空き店舗になっていると思うんですけれども、そこの方が今までずっと活性化頑張ってきたら晴明の朝市とかも主導でやってきたということで、かなり活性化にとって痛手なんかなと思うんですけれども、今後市としてその分をどういうふうにして挽回しようとか、空き店舗になった場合に取得しようとか、どこまで考えているのかお聞かせください。

【市長】 これはさなだミートさんの話でして、本当に真田さんには地域の活性化、特に晴明の朝市など先頭に立って切り盛りをしていただいて大変お世話になった方ですけれども、残念ながらお亡くなりになられ、その後ご商売のほうも閉められたということで大変残念であります。大きな一つの核を失ったというような思いでございますけれども、晴明の朝市などもまたその皆さん方によってやっていこうという今動きがございまして、そういう皆さん方と連携して、存続をしながら地域の活性化に結びつけていきたいと思っております。

建物になりますと、これは個人の資産になりますので市としてどうのということは今すぐ言えませんけれども、この新しい店舗も実は真田さんにご寄附をいただいたところがございます、そういう意味で本家のほうが今ああいう形で閉まっておりますけれども、またいろいろとご相談をしながら、市としてできることであればまた活性化に結びつくようなことは考えていきたいなというふうに思っています。

【秘書広報課長補佐】 そのほかございませんでしょうか。

それでは、フリーの質疑応答へと移ります。

【記者】 昨日、原子力機構の集中改革期間がスタートしまして、理事長も市長とお会いになられて、市長はその後の囲み取材の中で前進が期待できそうだというようにお話だったと思うんです。ただ一方で理事長肝いりの改革会議というのがきのう開かれたらしいんですけども、そこが報道には公開されませんでした。ということは地元に対してその中身というのが知れ渡らないというようなことになると思うんですが、機構は情報の透明化だとかそういったことを今回言っているわけで、ただ、そういうような、別に何か隠すというような意図があるのかといえ、それはちょっと違うかなと思うんですけども、市長としては、そういう機構の対応についてはどういうふうにお考えでしょうか。

【市長】 機構の中での会議でありますので、情報を隠すということではなく、その会議をしっかりと煮詰めながら、今後安全文化の醸成初め、きのう松浦理事長がおっしゃっていたような結束を固めるという意味の会議じゃないかなと、私も想像するしかないわけですが、その内容等について、またいろんな情報というのはこれからもしっかり発信をしていってほしいなというふうに思っております。

【記者】 1点目は、消費税の増税についてです。

きのう安倍総理が正式に表明ということで、来年4月から上がることになりましたけれども、まず率直に市長としてどのように受けとめていらっしゃいますでしょうか。

【市長】 消費税の増税につきましてはかなり前から議論されておりましたし、私ども行政、ちっちゃい行政を預かる者の中で社会保障制度をしっかりと確立していくために消費税を上げざるを得ないという状況でありまして、本来ですとないにこしたことはないというふうに私どもも思いますが、社会保障制度が崩壊してしまいますと、これは大変なことでありまして、ある程度皆さん方で負担をして将来の子供たちのためにという思いで判断をされたというふうに思います。

もう1点、経済対策ということでそれぞれの対策も総理も考えておられるようでございますのでその状況などを見きわめながら、本来ですと私ども事業も3%プラスになるわけでありまして、いろんな公共事業をするにしましても大変こたえるなという思いはございますけれども、やはり社会保障制度を維持するためには仕方ないというふうに思っています。

【記者】 関連してお聞きしますが、原発の停止に伴って嶺南全体の経済というのは決してプラスではないというふうに思いますが、今、市としての税収も含めて3%上がるというふうな市長の発言もありましたけれども、具体的にこのまま冷え込む経済に対して消費税増税を経てどういった対策を市として具体的にお考えでしょうか。

【市長】 今、税制関連で、ついせんだって要請活動に行ったんですけども、固定資産税等々の見直しの動きも出ておりまして、そういうことをやられますと非常に私ども地方自治体こたえます。特にご指摘のように、敦賀を初め嶺南地域というのは原子力発電所の停止で非常に困窮している状況でありまして、そういうことを捉えて考えれば、確かに3%の消費税というのは全て私どもの事業にも、また民間の皆さん方にもかかってくるわけでございます。

そういう意味で経済対策等々、例えば敦賀を含めて私どもの地域で一番やってほしいということは、国が原子力政策等について早く明確にする。前にも言いましたように、どうしていいかわからないという状況が一番苦しいわけでございますので、やはりしっかりと原子力のあり方など、もちろん再稼働問題についてはいろんな地域で安全審査を受けようという動きも出ておりますけれども、特に敦賀の場合は日本原電2号機の破碎帯の問題等もございまして、もんじゅにつきましては当然まだ1年間は動かない。ただ、体制も少し強化されて人員もふえておりますので少しのプラスにはなりますけれども、とても稼

働しているような状況には追いつかないということもございます。

そういう意味では、まずそのことを明確にさせていただく。そしていろんな要請の中で経済対策等々、これはあくまでも借り入れたお金の利子補給でありますとかそういう分野にしかとどまっていない分野もございますけれども、それと相まって私ども市として、先ほど言いましたような観光面のそういうことで多くの集客を得て税金をふやしていくといういろんな対策、それと産業団地も新しく今度調査しますけれども、そういう意味で元気をつけていこう、また港湾の活性化等から税金を上げていくという、そういう道も探りながら今は耐えていくしかないのかなと思っていますし、もとに戻りますけれども、国の原子力政策が将来どうなっていくかということをもっと早く明確にしてほしい、このことが一番大事だと思っています。

【記者】 長くなりますが、次、2点目に行きたいんですが、きのう県議会で原子力のレスキューセンターについて美浜町の候補地が挙がりました。美浜町で候補地が県の園芸センターのところに置く予定だという話が出ました。一方で、以前から自衛隊の誘致の話も出ているかと思えます。現状での最新の状況というのはどのようになっているのか教えてくださいませんか。

【市長】 今、杳見にあります日本原電の施設のバージョンアップされた形のセンターというと、実は前に議会でもちょっと話が出ていまして、美浜町長のほうからもご連絡をいただいてそういう形でできるということでもありますので、原子力立地地域にとっては非常に重要な施設であるというふうに認識をいたしております。ただ、その中がこうなっていくというような情報は私もまだ持っていませんし、またおいおい明らかになってくると思っております。

それと自衛隊の誘致であります。今、県のほうに嶺南地域6市町で知事のほうに出向きましてお話をした後、知事のほうからも国の関係のほうにお話が上がったというふうに伺っています。それ以外はまだ具体的に、防衛省との関係もございますので、具体的に、じゃこうだという話までは進んでいない状況です。

【秘書広報課長補佐】 それでは、各社ございましたら挙手を願います。

【記者】 敦賀2号機のいわゆる活断層の認定の話ですけれども、原電が追加調査の結果を出した後、8月30日にその調査結果をどうするかという検討会合が開かれました。どう扱うかという結論は先送りされた状態で大体1カ月が過ぎました。こういう状態を市長として今どういう状態だという認識をされているのかということ、規制委員会に何か言いたいことがあるのかということをお聞きします。

【市長】 日本原電の異議申し立ての話ですか。

【記者】 異議申し立てではなくて、活断層の認定の後に原電が追加調査結果を提出して、その追加調査結果について、じゃどうしましょうかということのを再検討するかどうかの会合が8月末にあって、その会合以降動きがないんですけれども、その状態についてどういう認識かということですか。

【市長】 私ども何度も言っておりますけれども、やはり速やかに。昨日の県議会の中でもそのような質疑があったというふうに伺っていまして、規制庁のほうとしてはそういう県議会の意見、いつまで何をやっているんだ、規制庁ちっとも動かないじゃないかというような話じゃなかったかなというふうに理解しておるんですけれども、東京に伝えるというような返答があったということで。しかし、再調査については可能性を否定していないようでございますので、早く早く対応してほしいなというふうに思っています。

【記者】 しばらく再稼働の審査など、別の原発の再稼働に向けた安全審査などもあってそちらのほうに力が行っているのかなと思うんですけれども、何か置き去りにされているような感覚というのはあるんですか。

【市長】 今、確かにそれぞれ再稼働を申請している立地地域もありまして、その安全審査にかかっておるとい状況はあるかもしれません。ただ、やはり私どもも地域の存亡をかけた一つの重要なところでありますので、先ほど言いましたようにどうなるかわからないという、結論が出ていない宙ぶらりんの状況にいつまでもしておくというのは非常に問題だというふうに思っています。

私は規制庁へ行ったときにも、いろんな問題に対応しなくちゃならん重要な時期ですか

ら、やはりもっと応援を頼んででもしっかりと規制庁の体制をつくって、人員を補給してでもやりなさいということ伝えてはおるんですけども、そのことについても、規制庁というのは言ってもまず返事が返ってこないというのが規制庁かなというふうに最近思わざるを得ないような組織でございますので、また機会があれば申し入れには行きたいというふうに思いますが、ともかく返事が返ってこないということで、ぜひマスコミを通じて私どもの声を届けてほしいなというふうに思います。ぜひ返事が欲しいと思います。

【記者】 きのうの松浦原子力機構理事長の表敬訪問の件でお聞きします。

きのう松浦新理事長は、もんじゅがなかなか動かないということについて、もともと設計ミスが原因であって、それによって現場の者が、平たく言うと萎縮するというようなことをおっしゃっていましたが、「設計ミス」という言葉で片づける、設計ミスが原因でトラブルが起きるといふその松浦理事長のご発言についての率直な感想をお聞かせください。

【市長】 私の聞いた範囲では「設計ミス」という言葉はなかったというふうに思いますが、原型炉という性格上、運転をしていって初めてふぐあいなどに気づく場合があるというようにお話をされたというふうに思います。ただ、一般的といいますか、原子力以外のところであればそういうことも通じる場所がありますけれども、私も昨日言いましたように、そういうトラブルがあれば地元としても大きなダメージを受ける立場でございますので、そういうことをクリアをしながら、また起こっても適切に対応をして、やはり大事に至らないような形でそれを発見をして、それをふぐあいとして直していくということが大事じゃないかなというふうに思います。

特にもんじゅというのはナトリウムが漏れてしまった。しかし、その原因もある程度わかってきております。ただ、そのデータなどをあの当時隠されたということで長引いたのが現状でありますので、そのあたりは松浦理事長も恐らくわかっているというふうには思います。そういう意味で、言葉にはそういう形で余りあらわせなかったかもしれませんが、そういう思いは私は受けとめておりますので、ぜひそういうことをしっかりと行っていただいて、1年間かけて体制を立て直し、そしてやはりもんじゅが再スタートできるように期待しております。

【記者】 理事長訪問のことなんですけれども、多分理事長は15分ぐらい機構改革について説明をされていて、その後市長がお答えしていたと思うんです。もんじゅの改革、きのうから始まったんですけれども、特に強化されて評価するところと、もうちょっとここをよくしてほしいというふうな課題点と、それぞれもしありましたら教えてください。

【市長】 これは私どもも言うておりますように、安全文化がやっぱり劣化をしてきている状況がああいう点検漏れとかいろんなところにつながったわけありますので、理事長のほうもそのあたりをしっかりと踏まえて、職員一人一人がそういう思いを持ってやっていくという決意を述べられておりましたので、そのことをやはりしっかりと見守っていききたいなというふうに思っております。

あと、細かい部分でここはだめと言いましてもなかなか、機構という組織としてこれから動いていくわけありますので、それはしばらく状況を見ていくしかないなというふうに思います。

【記者】 前、文部科学省が改革案を出したときには強化策が見えぬというふうに何か苦言も呈されていたと思うんですけども、その後、それを受けた原子力機構の改革案はその強化が見えたということになるんですか。

【市長】 いや、その評価自体、理事長も資料を持ってこられましたけれども、まだ具体的に中身は文科省が持ってきたのとはそう大きくは変わっていないというふうに思っておりますが、やはり理事長としての決意、また文科省は文科省としての監督官庁の立場がありますので、監督官庁にはしっかりともんじゅが動けるような形で機構がしっかりと立て直すことを、理事長、また齋藤所長を中心としてやってほしいということでの私どもの希望もありますし、機構側もそれをやるという決意を受けとめたわけでございます。中身等々については、これから1年間かけてやっていく段階の中でまたいろんなことが見えてくるというふうに思っておりますので、またその時点で言わなくちゃならんことはしっかりと行っていききたいというふうに思います。

【記者】 きのうの松浦理事長の訪問についてなんですけれども、聞くところによりますと敦賀市はプレス公開されたんですけれども、当初はプレス公開の予定がないように聞き及んでいます。機構の意向でそういうふうなプレス公開、最初は逡巡したような話も聞いていますが、そのようなことを市長がお聞きしているのかと、あと、このようなことについてどのようにお考えになれるかお聞かせください。

【市長】 きのうの面談の件ですか。

【企画政策部政策幹】 敦賀市は敦賀市としての対応をただけなんです。

【市長】 私は公開が当たり前としか思っていないもんで。

【記者】 市長は、原子力がどうなるかわからない分、ほかの産業で市を活性化したいと言われている、観光面で大きく集客すると先ほども言われていたと思うんですけれども、実際敦賀には自然とか歴史、文化とかいろんな地域資源がもともとありますけれども、そういうものを生かすとか新しいものをつくるとか、これからどういうふうなことをして観光のまちづくりをしていきたいとお考えになっていますか。

【市長】 観光については、従来から私どもも目標を立ててある程度クリアはしてきております。本当においしいものもありますし、いろんな見るところもありますので引き続いてしっかり行っていきます。原子力は原子力、観光は観光ということで分けて今までもやってきたつもりでございます。

ただ、例えば民宿などにとっても、今までは原子力関連の皆さん方が宿泊をしておりましたけれども、そういう方がいないという状況。ただ、いつもじゃなくて、定期検査というのは期間が限られていますので、その期間はあるけれども、いないときはちゃんと観光の人も入れておりましたので、そういう意味ではその枠が少し広がったという感覚の中で民間の皆さん方とタイアップしてアイデアを出しながら、定検の皆さん方がいない間はやはり観光客を埋めていく方策というのも大事でございます。そういう意味ではやはりPR活動が大事でございますし、今度7日に、避難先ということで奈良県の大和郡山、天理と生駒、奈良市が、私どもに何かあったときには受け入れをしていただけたということですので、実はご挨拶も兼ねて訪問してまいります。そういうときに、これも一つのご縁ですから、奈良県は特に海のないところですので、またそういう皆さん方に避難先ということで、私は決して避難などするようなことはさせないつもりではおりますけれども、そういう意味でご縁としておつき合いをする中でいろんな観光的なサービスなどもお持ちかけをして、そういう皆さん方の交流を図って少しでもまた観光として生かせるようなことも考えていきたいなというふうに思っています。

【記者】 その観光の続きなんですけれども、敦賀って本当に港があって交通の要衝ということたくさん歴史があると思うんですけれども、今、人道の港とか、結構ムゼウムも人気というふうに観光関連の方には聞きました。

それで、先日、芭蕉ウォークというのがあって、敦賀というのは松尾芭蕉が「奥の細道」で訪ねて、しかも目的地の一つであって10句も句を詠んだというふうに知られていると思います。氣比神宮とか色ヶ浜が訪れた場所ということになっていると思うんですけれども、私から見たら、そういう歴史のことをあまり積極的に何かアピールしているようにはちょっと見えないんですけれども、市長はその松尾芭蕉さんを生かしたまちづくりとか現状についてどういうふうに考えているんですか。

【市長】 敦賀は「杖置きの地」と言われまして、芭蕉さんが敦賀で最後だということのでつえを置いていったという、非常にそういう関連の皆さん方にとってはかなり有名な場所です。そういう意味で、俳句のいろんな催しをしたり芭蕉ウォークをしたり取り組んでいますし、パンフレットの中には結構そういうことを入れてPRしているつもりでございます。そういう意味で、せっかく芭蕉さんが来ていただいた場所ですから、ぜひいい形でPRをしていきたいというふうに思います。まだ宣伝の仕方がちょっと足らんのかもしれませんので、もっと力を入れていきたいと思っております。

【記者】 その続きで、芭蕉さんが、まずほ貝という小さい貝を拾ったという場所で色ヶ浜ってあると思うんですけれども、何年か前に市の漁港整備でほとんど埋め立てられてしまったというか、保全エリアとしてよく貝がとれるところは残したということがあったと思うんですけれども、やっぱり市民の方からすると「ああいうふうになって寂しい」とか

「貝が減った」というふうな声も聞かれるんですけども、市長さんはその現状についてどういうふうに。

【市長】 私どももまずほ貝のことを気にしながら、実は漁港整備をしました。しかし、漁港に暮らす皆さん方にとっては、あそこは一つの防災道路ですし必要なものですから、やはりそういう自然と人間が調和をしていく一つ的手段としてつくったものでございます。何もしくちゃいいといえいいかもしれませんけれども、人間と共生するのが私は自然だというふうに思っています。いろいろな人がおりますので言いたいことを言う人はそういうふうにするかもしれませんが、それはそれとして考えるしかないと思います。

【記者】 広域避難先へ先ほど訪れるということでしたけれども、今回広域避難先に決まってからは市長としては初めて行かれるんですか。

【市長】 初めて訪問させていただきます。また奈良県庁にもご挨拶ということで、こういって決してお世話にはなりませんけれどもお世話になりますというご挨拶をしに行きたいと思っています。

【記者】 アクアトム、前回聞いたと思うんですけども、たしか一、二カ月と言っていて1カ月たったと思うんですけども、進捗状況と、やっぱり今まで学習の場だったと思うので、いきなり商業施設とかにもしづらいうような、何か公共の土地を使っているのでもやりにくいかなと思うんですけども、どういうふうな場、教育文化とかどういうふうなものに利用してほしいという市からの考えがあったら教えてもらいたいというのがまず1点目です。

【塚本副市長】 先月の記者会見でそのように申し上げました。そういう中でじっと見えています。まだ機構さんからは、こういうふうな形でやりたいというような明確な答えはいただいておりますが、まだ1カ月しかたっていないので年内ぐらいじっとしておいたらどうかと思っています。しかし、これは時宜の問題ですから、ある時期が来てもなおかつ鎖があるというようなときにはきちっとした発言はさせていただきたいというふうに思いますし、うちのほうから提案するんじゃなくて、やはり機構が考えて私どもに提案していただきたいと思っています。

【記者】 じゃ、12月いっぱいまでは見守ると。

【塚本副市長】 そういう期限を……。まあ年内ということにしておきましょうか。

【記者】 それと中池見湿地のことで、市議会で副市長が、本当に北陸新幹線の工事で影響があるならばルート変更もあり得るというふうな発言をされていたと思うんですけども、市長とは、ちょっと違う、正しくはどういう……。

【塚本副市長】 いろいろ新聞等では出ておりますけれども、これから調査するわけで、1年半かけて調査して、あと半年で議論するわけであって、スペシャリストの人たちが大体の答えを出すわけですから、そのときに大きな影響が出たら常識的な判断はするでしょうというようなことを申し上げました。その延長線上にはそういうことだろうと言われてればそうかもしれませんけれども、私が発言したのはそういうことです。

【記者】 市長も同じようなお考えですか。

【市長】 同じです。

【秘書広報課長補佐】 そのほかございませんでしょうか。

それでは、先ほど奈良県のほうの訪問先の件につきましては資料をお手元に配付させていただきますので、また各社ボックスの中に入れてさせていただきます。

それでは、これをもちまして10月定例記者会見を終わらせていただきます。

午後2時10分 終了